

1 実践題材名 「研究計画書をつくろう。」(総合的な学習の時間)

2 学習のねらい

これまでの学習経験や体験をもとに、自ら課題を設定することができる。
 自ら設定した課題の解決に向けて、様々な調査方法を考え追求することができる。

著作権を尊重しながら、自分の考えを表現することができる。

3 題材について

(1) 題材観

総合的な学習の時間においては、生徒が活動や体験を自ら計画し、活動や体験したことを言葉でまとめ、表現することが活動の中心となってくる。課題やテーマを設定する段階は、その後の活動を支える上で大切になると考える。さらに、総合的な学習の時間においては、一人一人がよりよく活動するためには、思い付きの活動ではなく、計画をもとにした活動が大切であると考える。そこで、研究計画書の作成を通して、一人一人が何らかの根拠に基づいて活動する必要があると考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

生徒はこれまで、福祉・環境・国際理解など共通の体験をしてきた。それらをもとに、一人一人が興味・関心のある分野の研究を進めていく。課題の設定においては、主体的に課題を決めることができた生徒が約半数で、残りは、友達と同じ課題を設定していた。研究計画書の下書きの段階においては、書籍やインターネット上にあった内容を、そのまま書き写す生徒がほとんどあり、他者の考えを自分の考えとしている生徒が多い。

(3) 指導観

総合的な学習の時間のみならず、他の教科においても、書籍やインターネット上の情報を利用する機会が多い。しかし、著作権を考えて、資料を活用していることは少ない。一人一人の生徒に、自分の考えの根拠としたり、補強する意味で、著作物の引用方法について指導することは、著作権を尊重しながら、論理的な思考力をはぐくむことにもつながると考える。

4 指導の計画(8時間取扱い)

- | | | | |
|-----|---------------|-------|---------------|
| 第1次 | 研究計画を立てよう。 | | 2時間 |
| 第2次 | 必要な情報を集めよう。 | | 2時間 |
| 第3次 | 研究計画書を見直そう。 | | 2時間(本時はその1/2) |
| 第4次 | 研究計画の発表会をしよう。 | | 2時間 |

5 本時の展開

(1) 本時の目標

他者の著作物の引用方法を知ることを通して，著作権を尊重しながら，自分の考えを表現することができる。

(2) 準備・資料

引用に関する学習カード，コンピュータ

(3) 展開

活動及び内容	配時	留意点 評価
1 本時の活動内容を確認する。 研究計画書を見直そう。	5	前時までに作成してきた研究計画書を，著作権という観点から見直すことを知らせる。
2 研究計画書の内容を確認する。 (1) 研究計画書の自分の考えや意見の部分に印を付ける。 (2) インターネットや書籍からの情報の部分に印を付ける。 (3) その他からの情報に印を付ける。	10	作成した報告書の内容を，自分の考えと，他者からの情報に分けることで，他者からの情報から自分の考えが生まれていることに気付かせる。 計画書の内容を，自分の考えと，他者からの情報に分けることができたか。
3 著作物の引用方法について学習カードにまとめる。 (1) 著作権について知る。 (2) 引用について知る。 (3) 引用方法について知り，学習カードにまとめる。	15	他者からの情報は，すべて他者の著作物であり，その作成者に著作権があることを知らせる。 本時では著作権を尊重して，その考えを「引用」を通して利用するという視点で知らせる。 学習カードは個人ファイルに保存させ，これからの参考資料とさせる。
4 研究計画書を修正する。 (1) 引用した著作物を学習カードにまとめる。 (2) 一人一人の考えを補うために使われているか確認する。 (3) 研究計画書を修正する。	15	研究計画書の本文中にまとめた他者の著作物の出所を明らかにさせる。 引用が多い場合には，一人一人の考えを補強するのに必要なものを選ぶように指導する。 引用の方法に従って，他者の意見をまとめているか。
5 本時のまとめをする。	5	次時は，研究計画書を清書することを知らせる。

6 実践のまとめ

(1) 結果

多くの生徒は、著作権という言葉から、「守らなくてはならないもの」とか、「勝手に使ってはいけないもの」という考えをもっていた。そのような中で、引用方法を知ったことで、他者の考えを「引用」することによって、著作権を尊重して、他者のよい考えや活動を使うことができるようになった。また、研究計画書の中から他者からの情報を選び出す作業を通して、自分の考えが少なく、他者の考えが大部分を占めていることに気付くことができた。

一方、今回の活動の中で、一般的に認知されているような事項についてもは出所を明記しようとする姿が見られた。また、生徒が接する情報は多様であり、それらの情報のすべての出所を確認できなかった。

(2) 今後の課題

本実践では、著作権を尊重しながら著作物を利用するために引用だけ扱った。著作権をなぜ尊重しなければいけないかなど、概念的な部分の理解を深めることができるように、計画的に実践をしていく必要がある。